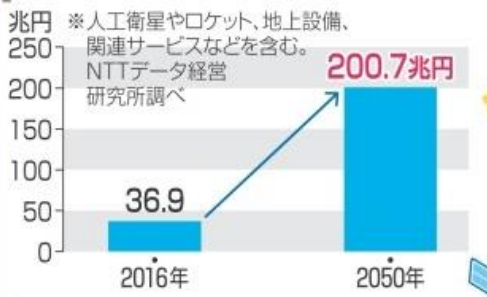
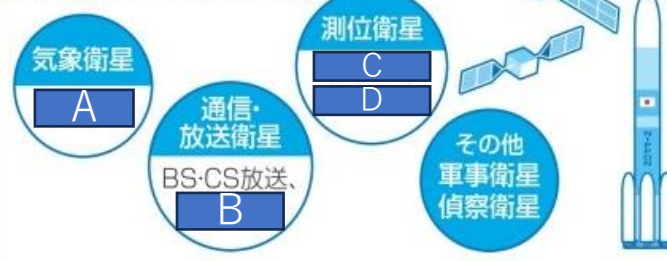


世界の宇宙ビジネスの市場規模と見通し



宇宙ビジネス

人工衛星の主な種類と用途



宇宙関連ビジネスが拡大しています。宇宙開発は国家の威信をかけた競争から、民間による商業化の流れが拡大し、近年はベンチャー企業参入も盛んです。ロケットや人工衛星の打ち上げと管制設備の整備に加え、放送・インターネット通信やデータセンター、さらに宇宙旅行などの娯楽事業まで、ハードとソフトの幅広い分野で経済波及効果が期待されます。

総務省の「宙を拓くタスクフォース」は2019年、NTTデータ経営研究所の試算を基に、宇宙ビジネスの世界市場規模が16年の36兆9千億円から50年には200兆7千億円に膨らむとの予測を公表。日本の事業も16年の8兆9千億円が50年には31兆9千億円に伸長する可能性があるとして、育成を訴えました。衛星の利用が天気予報や農業、位置システム分野な

どに急速に拡大するにつれて、世界的にロケット不足が生じているといわれ、各国が打ち上げを競っています。また、従来の人工衛星より低コストで開発・投入できる小型衛星などの需要も高まりつつあります。ただ、こうした中で、日本の宇宙事業の基礎となる打ち上げにトラブルが多発。発射技術の安定化が求められています。例えば昨年、宇宙航空研究開発機構（E）の小型固体燃料ロケット「イプシロンS」のエンジンが燃焼試験中に爆発。超小型

探査機「OMOTENASHI(オモテナシ)」は打ち上げ後に通信が回復せず、月着陸を断念し、今年も民間企業スペースワンの小型ロケット「カイロス」が発射直後に爆発を起こしました。このように日本もロケット開発を急いでいますが、先行する欧米やFなど世界との差を埋めることが課題となります。宇宙ビジネスは新たな経済成長領域として大きな期待を集めており、政府と民間がタッグを組んで実績を積み上げていくことが世界での競争力向上の鍵になりそうです。

民間参入盛ん、分野も拡大

上の記事を読んで下の問いに答えましょう。

- 1 宇宙ビジネスの世界市場規模は、2050年は2016年の何倍になりますか。小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで答えましょう。
- 2 図の空欄A～Dに入るものを、次の中からそれぞれ選んで記号で書きましょう。  
 Ⓐカーナビ ⓐネット通信 ⓑ天気予報 Ⓒ地図アプリ
- 3 空欄Eに入る組織の英文名称の略称をアルファベットで書きましょう。
- 4 空欄Fに入る国の名前を書きましょう。

、 倍

A	B	C	D

NIEワークシート  
小高～高校

## NIEワークシートのこたえ（2024年5月7日公開）

### ◆ワークシート「宇宙ビジネス(理科)」

2024.5.1付 夕刊 2面 解答

1 5.4 倍

2 A④ B④ C④または⑤ D④または⑤

3 JAXA

4 中国